

「FM Festival2019 未来授業～明日の日本人たちへ～」

公開対談・第1弾

山中伸弥(ノーベル生理学・医学賞受賞者・京都大学 iPS 細胞研究所所長)

×

川上未映子(芥川賞作家)

10月3日(木)@TECH PLAY SHIBUYA 参加学生募集スタート!

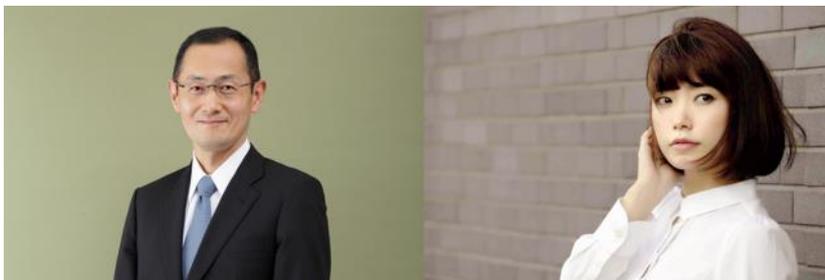
TOKYO FM と JFN が 2011 年から毎年開催している、日本を代表する“知のフロントランナー”と現役大学生との公開講座『FM Festival 未来授業』の 10 回目となる開催が、今年も決定しました。

この開催告知とともに発表された第1弾の対談は2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞者・京都大学 iPS 細胞研究所所長の山中伸弥と、2008 年小説『乳と卵』で芥川賞を受賞した作家・川上未映子の対談。科学と文学、2つのアプローチから見た生命、人が生きる意味に迫ります。

対談は、10月3日(木)に渋谷の TECH PLAY SHIBUYA で行われ、11月4日(月・休)16時から3時間にわたって放送する特別番組『FM Festival2019 未来授業～明日の日本人たちへ～』にて TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局ネットで放送されます。

現在、特設ホームページでは、参加大学生を募集中。応募・講義の概要・詳細はホームページをご覧ください。(https://www.tfm.co.jp/future/fes/)

【山中伸弥(iPS 細胞研究者) × 川上未映子(作家)】



未来授業

「〈いのち〉は一体だれのもの？」

科学と文学、2つのアプローチから見た答えとは。

山中伸弥がノーベル生理学・医学賞を受賞した2012年から7年。この数年で目覚ましい発達を遂げたゲノム編集技術で、iPS 細胞から精子や卵子の作成や、動物の体内で臓器を作る研究が猛スピードで進化を遂げています。昨年は、中国の科学者がヒトの受精卵のゲノムを改変し「ゲノム編集ベビー」が生まれたことで、生命倫理を巡る議論が活発化しています。

一方、わたしたちが〈いのち〉を授かるための選択肢も今やひとつではなくなりました。代理母出産、精子・卵子の凍結保存、AID(第三者精子提供)など、受精や出産に関する〈いのちの技術〉がすすむにつき、〈生まれてきた子供が親を知る権利〉にも考えを及ぼさなくては行けないという新たな問題も発生しています。

医学・生命科学の「進化」は私たちをどこへ連れて行くのか。
“男女が結ばれ子を産む”という自然の摂理を超えた先にあるものはなにか。

そんな世界で〈いのち〉は、かつてと同じ価値を持つのか。
わたしたちは〈いのち〉を、どこまで自由にしていよいものなのか。
〈いのち〉は、一体だれのものなのか。

2019年の未来授業、講師は京都大学 iPS 細胞研究所所長・山中伸弥さんと芥川賞作家・川上未映子さん。ヒト iPS 細胞の作成に世界で初めて成功した生命科学のトップランナー・山中さんと、新刊「夏物語」で子を産むことの意味、生まれることの意味を問いかけた川上さんが、〈いのち〉をめぐる根源的な問いを学生たちに投げかけ、ともに考えます。

〈わたし〉のいのちは誰のもの？

世界中で研究され、医療における様々な問題の解決の糸口になりえる iPS 細胞は、生命の誕生や寿命といった、生命倫理的課題をはらみながら日々進歩を遂げている。

一方、作家・川上未映子が今年7月に刊行した最新作『夏物語』は、第138回芥川龍之介賞を受賞した小説『乳と卵』の登場人物たちの新しい物語であり、作中には、「非配偶者間人工授精＝第三者の精子提供による生殖行為」というテーマにも挑んでいる。

科学と文学という互いのアプローチから見ると、生命倫理、人が生きる意味とは？2つの分野の交差点となる対談の行方をお見逃しなく。2人の対談は10月3日(木)も東京都渋谷にある TECH PLAY SHIBUYA で行われる。この対談に参加する大学生150名を特設ホームページにて募集中。

詳細は(<https://www.tfm.co.jp/future/fes/>)まで。

●東京会場・第1弾 10月3日(木) 開場 16:30 開演 17:00
会場:TECH PLAY SHIBUYA (渋谷区宇田川町 20-17 8F)

《「FM フェスティバル 2019 未来授業～明日の日本人たちへ」講師プロフィール》

東京会場・第1弾



山中伸弥 京都大学 iPS 細胞研究所所長

1962年、大阪市生れ。神戸大学医学部卒。大阪市立大学大学院研究科修了。米国グラッドストーン研究所博士研究員、京都大学再生医科学研究所教授などを経て、2010年4月から京都大学 iPS 細胞研究所所長。

2006年、胚性幹(ES)細胞と異なり、受精卵を用いず体内の細胞に分化する可能性を持つ人工多能性幹(iPS)細胞をマウスの皮膚細胞から作製したと発表。2007年にはヒトの皮膚細胞から iPS 細胞を樹立したと発表した。2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞



川上未映子(作家)

1976年、大阪府生れ。2008年、『乳と卵』で第138回芥川賞を受賞。2010年、『ヘヴン』で平成21年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、第20回紫式部文学賞受賞。2013年、詩集『水瓶』で第43回高見順賞受賞。短編集『愛の夢とか』で第49回谷崎潤一郎賞受賞。2016年、『あこがれ』で渡辺淳一文学賞受賞。他に『すべて真夜中の恋人たち』や村上春樹との共著『みみずくは黄昏に飛びたつ』など著書多数。『早稲田文学増刊 女性号』では責任編集を務めた。最新刊は長編『夏物語』。

《番組概要》

◇タイトル: FM Festival 2019 未来授業～明日の日本人たちへ～

◇放送日時: 2018年11月4日(月・休) 16:00～19:00

◇放送局: TOKYO FMをはじめとする JFN 38 局

◇番組総合司会: とーやま校長

◇特設サイト: <https://www.tfm.co.jp/future/fes/> ※ラジオ放送終了後に特設サイトにてビデオ Podcast を配信します。

《FM フェスティバルとは》

1972年にスタートした FM Festival。音楽を中心に、音声メディアである FM メディアの特性と全国に展開するネットワークの強みを最大限に活かし、全国の JFN 加盟全 FM 局が結集。全国の FM リスナーがひとつとなる日として、若者リスナーと一緒に毎年毎年積み上げて実施してきた FM メディアの祭典です。2010年度からは、これからの未来を担う若者たちが、社会を生き抜き、生きるためのヒントを送り届けたいという思いのもと、「知の未来授業」を開講しています。

各専門分野で日本の第一線で活躍し、時代のオピニオンリーダーである「知のフロントランナー」が大学生と真剣に向き合い、直接熱い討論を交わすインタラクティブ型特別授業。

2011年3月に実施した第1回を皮切りに、FM Festival 未来授業は、今年で第10回目の開催となる。